第 4 章　教学体制のグローバル化に関する実績

4.1　取り組みの概要

教学グローバル化 PT の取り組むべきタスクについては、これまでに、教務委員会を中心に検討している教学に関する諸課題と重複している事項が多くある。グローバル人材育成推進事業に採択されたことにともない、教務委員会が取り組んでいる諸課題とのすり合わせを行い、今日的な教学改革については、教務委員会を中心に検討していくことが確認された。その後、平成 25 年 9 月 4 日開催の教務委員会で、教学改革プラン構想を提示（図 4-1）し、その推進に向けて承認を得た。この教学改革プランを達成することは、広く、構想調書に記載している教学に関する諸項目を包含していることは言うまでもない。

この教学改革プランを達成するために、平成 26 年度実施に向けて、全開講科目について、科目ナンバリングを導入する準備を始め、各学部教授会及び共通教育の各カリキュラム部会では確定に向けて最終段階に至っている。また、平成 26 年度からは、各学部教員が中心となって修学支援を行えるよう、履修計画相談体制を全学的に構築していくことを計画している。この履修計画相談体制は、教学改革プランの中核をなす極めて重要な体制であり、教学グローバル化ＰＴが取り組むべきタスクとあいまって精度を高めていく必要がある。

4.2　現状と成果

4.2.1　シラバス・成績評価改訂の検討

平成 25 年度に、教務委員会に 3 つのワーキンググループ（シラバス・科目ナンバリング、成績評価、アカデミックカレンダー）を設置して具体的な課題について検討を開始した。

平成 26 年度開講科目のシラバスから、学生の主体的な学びを促す為に、必要な情報を充実させた（授業時間外の学習時間の増加を図り、準備学習等（事前・事後学習）の項目も充実）。オフィスアワーについては、シラバス記載を必須とはしなかったが、非常勤講師を含む全教員に対して、平成 26 年度より実施することが教務委員会で承認（平成 25 年 11 月 6 日）され、各学部教授会等に伝達された。また、平成 26 年度から導入される、ナンバリングを Web シラバスシステム上に表示する。更に、教育の質をより一層高め担保するためにも、授業担当者以外の第三者（各学部のカリキュラム委員会を中心とする）による、チェック体制を導入することとした。

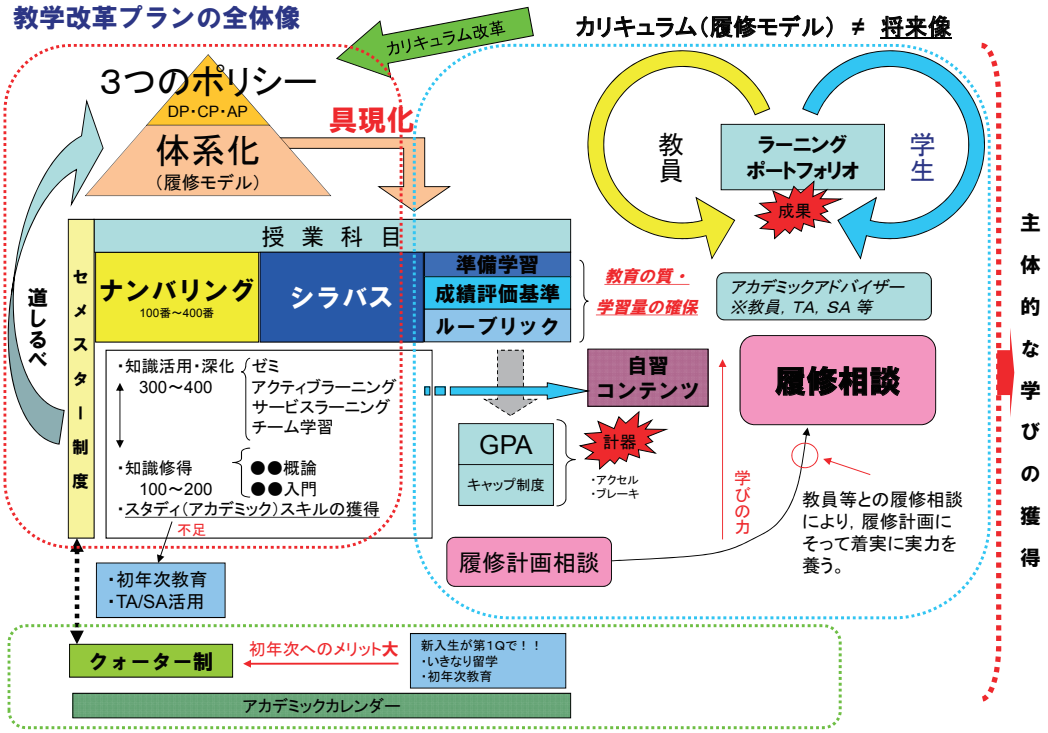

図 4-1. 教学改革プランの全体像

成績評価改訂については、教務委員会にて、『成績評価に関する資料』を提供している。これは、各学期・学部・クラス規模ごとに全ての科目における登録者数・合格者数・合格率・点数分布（90 点台・80 点台・70 点台・60 点台・60 点未満）を一覧にしたもので、著しく不均衡（スポイル科目と疑われる状況）な成績評価がなされている科目について、各学部に見直しを依頼（平成 25 年 11 月 4 日）し、将来の成績評価の公開に向けて適正な成績評価がなされるよう努めた。

4.2.2　ナンバリング調査・導入

教務委員会で、ナンバリングの基本方針≪記号（学部・学科・学問分野）＋ 3 桁数字（難易度）≫を決定し、各学部の科目ナンバリング原案を作成した。各学部で教務委員会（案）を検討し、平成 26 年度より新入生対象の全開講科目にナンバリングを導入した。

4.2.3　ＴＯＥＩＣ義務化・公表の検討

平成 25 年度からスタートした必修英語 8 単位実施にともない、1 年次生全員に対して、4 月 1 日に TOEIC Bridge、秋学期定期試験として、TOEIC IP 受験を義務付けた。平成 26 年度以降、その結果等を分析し、TOEIC の伸び率公表に向けて検討していく。

4.2.4　ラーニングポートフォリオ / ティーチングポートフォリオ / 英語自習システム開発構築の検討

構想調書に記載のとおり、ラーニングポートフォリオについては、平成 26 年度より、グローバル・サイエンス・コースにて先行導入が決定している（本報告書 2 章を参照）。教学グロー

バル化 PT としては、グローバル・サイエンス・コースでの先行導入の結果を検証しつつ、教員中心の履修計画相談体制を円滑に進めていくためのツールとして、平成 27 年度から、全学的なラーニングポートフォリオ導入を目指して検討していく。

ティーチングポートフォリオについては、その必要性について引き続き検討を行う。

モバイル対応・自習英語システムについては、平成 25 年度より、グローバル・サイエンス・コースにて先行導入している。その導入結果を踏まえて、全学的な展開に向けて、全学必修英語カリキュラム部会とその有用性について検討していく。

4.2.5　自己発見数値、「大学生基礎力調査」各種指標数値に関するデータの取得

キャリア教育研究開発センターに一次的検討を委ねる課題については、検討結果の報告の提出を依頼した。その後、キャリア教育研究開発センターから、必要なデータの提供は行うものの、課題の検討については、教学センターが行っていくよう依頼を受けた。なお、「大学生基礎力調査」における各種指標の数値アップに関し、キャリア教育研究開発センターでは、キャリア形成に根源的な影響をもっていると考えられる対人交流特性にも着目している。この測定にはＰＣエゴグラム（適性科学研究センター）を用い、それにより測定されたＰＣ（ Permeability Control Power：透過性調整力）の値を分析した結果、個々の学生の特性に合った方法でＰＣ値を高めるトレーニングを授業に組み込むことにより、有意な向上が確認できた。なお、このような訓練を受けない限り、従来のカリキュラムのみではＰＣ値の向上は期待できないことも、測定データは示しており、今後、各授業への展開について検討する予定である。

4.2.6　英語カリキュラムの導入とＧＪＰ (Global Japan Program) 強化

全学英語必修カリキュラム部会に一次的検討を委ねる課題については、平成 25 年度末までに、検討結果の報告の提出を依頼した。

平成 25 年度より導入された、全学共通英語 8 単位必修化（総合生命科学部は学部完成年度の関係で 1 年遅れ、平成 26 年度より全学部実施）に伴い、入学時のプレイスメントテストとして TOEIC Bridge を実施した。また、年に 1 回、秋学期定期試験として、TOEIC IP テストを義務化した。

GJP（Global Japan Program）は、国際的な標準科目として平成 16 年度に設立された英語講義科目群である。本学の国際化を促進する施策の一環として、英語を母語とする留学生が言語の壁を意識することがないよう、特に英語で受講できる講義を整備したものである。また、留学を予定している一般学生には、日本からの留学生として問われるアイデンティティの醸成と、英米系大学において行われる「チュートリアル」に対応できる資質を涵養するため、英語による一般講義が開講された。開講当初は、「日本の歴史」、「日本の文化」、「日本事情（政治と社会）」、「日本経済の現状」、「日本の経営」、「日本の法律」の 6 科目であった。グローバル化の進展および学生のニーズに対応する形で、拡充していき、平成 25 年度には GJP 科目として 29 科目が開講された。平成 26 年度以降も、自然科学系の科目（「Japanese Science & Technology」）が開講されることが決まっている。なお、平成 26 年度の外国語学部のイングリッシュ・キャリア専攻の開設に伴い、GJP に対する需要は更に高まっていくものと予想される。(本報告書第 2 章参照)

KSU 科目と社会問題科目開講については、人間教育科学カリキュラム部会にその一次的検

討を委ねている。共通教育科目の改革に伴い、本学の特徴的科目である KSU 科目群についてもその必要性を検討のうえ、再編された。平成 26 年度からは、グローバルな観点を養うために、「KSU 特別講義（Japan's Foreign Policy）」が開講される。

4.3　まとめ

本章では、教学グローバル化 PT より、教学体制のグローバル化に関する本事業の成果について述べた。本 PT の主な成果は、次の通りであった。

1. シラバス・成績評価改訂の検討 (4.2.1 に記述)
2. ナンバリング調査・導入 (4.2.2 に記述)
3. TOEIC 義務化・公表の検討 (4.2.3 に記述)
4. ラーニングポートフォリオ / ティーチングポートフォリオ / 英語自習システム開発構築の検討 (4.2.4 に記述)
5. 自己発見数値、「大学生基礎力調査」各種指標数値に関するデータの取得 (4.2.5 に記述)
6. 英語カリキュラムの導入とＧＪＰ (Global Japan Program) 強化 (4.2.6 に記述)

今後も、図 4-1 の教学改革プランの方向性に沿って、本事業にある施策について、実現していく予定である。